

入 賞

齊藤光代 [住所・年齢非公開] テーマ「夢」

親鸞さまとお誕生日が同じとゆうだけでもありがたいご縁とよろこばせて頂いて
いますのにお手紙が書けるなんてまるで夢のよう。私が生まれ育った小さい寺には、
親鸞聖人御旧跡分地と刻まれた石碑と共に、内陣には聖人さまのお弟子が彫られたと
伝えられるお木像が安置されております。年に一度降誕会の折、開扉して白いマフラ
ーをお取り替えし、恩徳讃を唱和しておりました。その恩徳讃こそ私と讃仏歌との熱
い出遇いでした。それからの私は、その美しい讃仏歌に魅せられての青春でした。

私の夢。海外に住んで半世紀、今も仏教讃歌の名曲にふれるご縁に恵まれました。
この美しい讃仏歌を通してお念仏の輪を広げるためには、どうしてもしなければなら
ない事がありました。それは日本語の讃仏歌を英訳することでした。ここハワイでも
時代はかわり、私が強烈な印象をうけた恩徳讃も、幼い頃なれ親しんだ讃仏歌も英語
でうたう時代になりました。長い間うたいつがれてきたこの美しい讃仏歌を、若い世
代に伝えようと翻訳小委員会が作られ英訳の活動を始めました。讃仏歌を英訳してう
たうとゆうことは、短い詩の中に秘められているみ教えを正しく伝え、しかも作詩者
の詩的情景を考慮しつつ、限られた音符の中に言葉をおさめなければなりません。一
つの言葉がこれほど詩を左右するとは思いませんでした。“弥陀大悲の誓願を”
や“念仏”のうたの中には、海を越えてもかわることのない六字のお名号が生き生き
とうたわれております。私にはもう一つの小さな夢もあります。仏の子らに、いつで
もどこでもうたえるような讃仏歌を作りたいし、そんな思いをこめて三、四曲作りま
した。届きましたでしょうか、私達の心のうた声が一。

親鸞さま、今度お浄土でお会いします折は、浄土合唱団を結成して英語の讃仏歌を
ご一緒にうたってみましょう。これも私の夢一。親鸞さまはテナーかな、いやベース
かも。浄土に響けよ！わが心のうた。 合掌